

みどりみらい ぐんじとしのりの議会報告

2002/01/10 Vol. 86 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362
E-MAIL ID / toshigunji@hotmail.com

あけましておめでとうございます。

いつもお世話になっております。昨年は大変お世話になりました。本年も市政発展のために尽力してまいりたいと存じますので、ご指導よろしくお願いいたします。

本年4月から、学習指導要領が変わります。

皆様、ご存知の通り、来年度より学校は新しい学習指導要領のもとで変わります。この学習指導要領では新しい学校教育を目指して学校は以下のようなことを行うとしています。

完全学校週5日制の実施	わかる授業、楽しい学校の実現
自ら学び自ら考える力の育成	特色ある学校づくりの推進
総合的な学習の時間の新設	

また、学習指導要領の改訂の4つのねらいとして以下のものがあげられています。

1. 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成します。
2. 自ら学び、自ら考える力を育成します。
3. ゆとりある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実します。
4. 各学校が創意工夫を生かして特色ある教育、特色ある学校づくりを進めます。

<解説> 今回の改訂は「学校5日制 土日休み」を完全に実施することが前提となっています。そのため20年前からの「ゆとり教育」の考え方を引き継いで、さらに教える量を減らす「教科内容の厳選(スリム化)」が第一のキーワードになっています。

文部科学省はこの新学習指導要領の実施で「99%落ちこぼれが消える」「補習塾が要らなくなる」と言い切っています。確かに国・算・社・理の主要教科の存在感や学習テーマがここまで希薄になれば、学校はもはや「学びの場」とは言えなくなり、学習と学力をめぐるさまざまな問題は解消されるかも知れません。しかし、これは本当の意味での「問題解決」ではなく、ただの「問題回避」に過ぎないのではないのでしょうか。

「ゆとり教育カリキュラム」(1980年実施)の時代に入り、「ゆとり」をはじめ「個性重視」「豊かな人間性」「生きる力」等々の美しい単語が散りばめられた文章が中教審答申や指導要領前文などで多く見られるようになりました。教育改革のベクトルは一貫して受験競争や学力重視を「悪」とみなし、それらの美しい理念のもとに進められてきました。しかし、公立中学校の教育現場では「ゆとり教育」のスタートと同時に全国で「校内暴力」が多発。そしていま、小学校では「学級崩壊」が大変な問題となっています。「ゆとり」や「個性」といった未熟な改革理念、だれもが反対できない曖昧なキーワードの存在は子どもたちをむやみに迷わせ、行き場を見失わせているとさえ思えてきます。

私は最大の問題は「学力低下なのでは?」と考えています。

事実、学力の低下はすでに高等教育で問題となっていて(大学の理数系授業が成立できない)また国立大学の各学部長が口をそろえて指摘するように、中等教育(中学・高校)さらには初等教育(小学校)での基礎学力の弱体化という重大な問題が一方にあります。このテーマに関しては明確な統計データは存在しないと思いますが、30年以上も前には、

小学校の授業は6年生では殆ど毎日6時間授業であったのが、いまや週に1度の6時間授業。そして、更に来年度からは授業の削減が行われます。このように学習指導要領改訂の度に削減されてきた主要教科の授業時間数が、そのまま学力低下の数字につながっているということが言えるのではありませんか？ みなさまはどのようにお考えになりますか？

<主要教科授業時数の推移>

西暦	名称	理科	社会	算数	国語	総合計時間数
1971	現代化カリキュラム	628	663	1047	1603	3941
1980	ゆとり教育カリキュラム	558	558	1011	1532	3659
1992	(現行)指導要領	420	420	1011	1601	3452
2002	(次期)指導要領	345	350	869	1377	2941

「教科内容の厳選」という中教審答申のガイドラインに沿って、主要教科の学習内容の3割近くが削減(スリム化)されています。しかし、一方では上の表の通り、授業時間数も同様に削減されてきており、「時間あたりの学習内容」という側面から考えてみても、単純に「学習テーマのカット」に過ぎないのではありませんか？これで、「よくわかる授業」が実現できるとは考えられません。

- 今回の学習指導要領改訂により、例えば算数では以下のような事象が起こります。

新学習指導要領では、整数の足し算・引き算は3桁どうしまでしか許されなくなります。

よって、現在の学習指導要領では3年生の内容に含まれている4桁の数どうしの足し算・引き算の計算(これは普段の生活でおつりの計算などでよく使われる、例えば2005-1575)は「電卓を用いること」になってしまいます。

新学習指導要領では、整数の掛け算は2桁×2桁、3桁×1桁までしか許されなくなった(それを超えると基本的に「電卓」ということになる)。現行の3年生で教えている3桁×2桁の計算(例えば123×45)と、4年生で教えている3桁×3桁(例えば256×128)は扱わないことになりました。2桁×2桁と3桁×1桁の筆算を習うだけでは何桁であっても同様のパターンで計算可能な整数の掛け算の普遍的な仕組みを理解することは不可能です。(一般に3桁どうしの掛け算がマスターできればどんな桁数の数の掛け算でもできるようになることが経験上わかっているようです。)整数の割り算もほぼ同様です。

新学習指導要領では、小数点以下が1桁の小数の計算しか扱わない(それを超えると基本的に「電卓」ということになる)。現行では4年生と5年生で教えている小数点以下が2桁以上ある小数の計算(例えば3.14×25)は扱わない。～円周率は「およそ3」です。

他にも削減された事柄があるのですが、(例えば「台形の計算式を学習内容から削除」する)ここでは紙面の都合上、省略することにします。- 念のために記載しますが、もしかしたら4桁以上の足し算・引き算や3.14による掛け算・割り算のような計算を電卓無しでやるやり方を中学校あたりでは習うことになっているのでは、などと思ったら大間違いです。小学校終了後のフォローは一切ありません。

次回、この紙面にて、12月定例会に、私が「まちづくり研究会」を代表して、質問を行った「学習指導要領の変更と教育行政」についての印西市教育委員会の考え方をご紹介して参りたいと思います。

(参考)「学習指導要領」とは？

日本の初等・中等教育、つまり幼稚園から高等学校までの教育内容を「規定」するもの。学習指導要領はほぼ10年ごとに改訂され、試案の時代も含めて今回は6回目の改訂です。改訂の流れは中教審(中央教育審議会)の答申 1.教課審(教育課程審議会)の答申 2.学習指導要領の改訂告示 3.1.の徹底と教科書作成 4.移行措置 5.教科書検定と採択 6.本格実施で、現在は7.の段階です。戦後のある時期まで(高度成長期の頃)はその役割を積極的に評価する人も多くいましたが、今はその存在意義を疑問視する人が少なくないようです。

この紙面へのご批判、ご意見もお待ちいたします。本年もよろしく申し上げます。
ぐんじとしのり